

2019 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書 提出用

公益財団法人 橋本財団  
理事長 橋本 俊明 様

2020 年 5 月 27 日

ふりがな	いっばんしゃだんほうじん おかやましょうがいしゃぶんかげいじゅつきょうかい		
団体名	一般社団法人 岡山障害者文化芸術協会		
代表者名	役職名	代表理事	氏名 越宗 孝昌
連絡先	住所	〒700-8634 岡山市北区柳町 2-1-1 山陽新聞社会事業団内	
	TEL	086-803-8071	
	E-mail	info@kiraboshi-art.com	
	URL	https://kiraboshi-art.com	
設立年（西暦）	2018 年		
主な活動	岡山県全域を対象とした障害者アートの全県公募展や障害者アートをテーマにした創作支援セミナー、シンポジウム等による障害者の文化芸術活動振興		
活動の対象者	岡山県内で創作活動に励む障害のある方々とその支援者ら		
助成活動名	障害者アート全県公募展など岡山県全域を対象とした障害者アート支援		
助成額	2,000,000 円		
実施内容	目的	岡山に暮らす障害のある方が文化芸術を享受し、その担い手、作家となり創作に取り組めるよう、創作と生活（進学・就業など）の両立のための支援が身近に受けられる社会を目指す。著作権など権利擁護、作家の生活や作品の保管、展示に関する相談窓口の設置、障害者アート支援組織・支援者ネットワークづくり、作品がいつでも見られる常設展示の場の整備を目指す。	
	内容	<p>第3回きらぼし★アート展は「輝く星がつなぐ海・人・街」をテーマに開催し、今回から新たに写真部門が追加された。山陽新聞紙面等を通じて岡山県全域から作品を募集。造形、絵画、写真の計3部門に205点の応募があり、審査を通過した絵画50点、造形17点、写真15点が展示された。</p> <p>9月27日～10月3日まで「表町・街なか美術館」というタイトルで岡山市の表町商店街を会場に開催。実行委員会の呼びかけに50店が店頭での作品展示に応じてくださり、イーゼルに絵画50点を架けて展示。造形17点は天満屋地下タウンアートスペースに、写真15点はアサノカメラフォトギャラリーに展示した。さらに優秀作品20点はバナー（垂れ幕）に印刷。アーケード上部からつるして「空中展示」して商店街をアートで埋め尽くした。実行委は商店街地図に50点の作品名を記入したマップを作成。ライブペイントやワークショップなどイベントの日時、場所などの情報提供に加え、星のスタンプを10個押して集めると記念品がもらえるスタンプラリーを設けるなど、広い商店街での展示を楽しく見て回れる企画も盛り込んだ。開催期間中の土、日曜日にはガイド付き鑑賞ツアーを実施、特別支援学校の先生がガイド役になり、作家の人柄や絵の描き方、見所などを話しながら約1時間かけて鑑賞して回った。ツアー参加者からは「制作に込めた思いが伝わった」などの感想が聞かれた。商店街の路上にビニールシートを敷き、紙を広げて作家と子供たちが「海」というテーマで思い思いに描くライブペイントは親子連れで賑わった。</p>	

		<p>表町商店街での展示を終え、10月5～14日までは玉野市築港、産業振興ビルに会場を移し「第3回きらぼし★アート展 in 玉野」と題して作品を展示。開幕イベントには滋賀・やまなみ工房の山下完和氏、東京・愛成会の小林瑞恵氏、早島町・ぬかつくるとこの中野厚志氏の3人が作家の発掘、創作支援などについて意見交換し、やまなみ工房の作家に焦点を当てた映画「地蔵とリビドー」を上映した。著作権など権利擁護について、岡山市内の弁護士とともに冊子「障害者アートの法律ガイド 所有権・著作権・契約等」を作成。開幕イベントでセミナーを開催し、冊子を配布した。</p> <p>入賞審査は備前焼の重要無形文化財保持者（人間国宝）の伊勢崎淳氏、山下氏、小林氏ら県内外の専門家5人により行われ、最優秀賞のきらぼし大賞は会社員・山根暁さん＝鏡野町＝の造形作品「ロボット2019」が選ばれ、絵画賞3点、造形賞1点、写真賞1点、新人賞2点のほか、玉野会場で行った来場者投票で最多を集めた1点には「一番星賞」が贈られた。入賞者は10月26日に山陽新聞社（岡山市）で行われた表彰式で賞状と記念品が手渡された。表彰式終了後、展示作品すべてを収録した図録を制作した。</p>
	<p>成果</p>	<p>「きらぼし★アート展」は、回を重ね新聞・テレビ等で露出が増えたことで岡山県内の障害者アート支援イベントとして認知度が高まっている。展示の様子や創作風景が紹介されることで、障害のあるアート作家とその作品の魅力が広く知られる事となり、作家本人や家族、周囲の支援者らの社会参加促進や創作意欲の向上につながる好循環が生まれている。同アート展の実績により、2019年度は岡山障害者文化芸術協会が岡山県から「障害のある人の文化芸術活動推進事業」を受託した。</p> <p>「第3回きらぼし★アート展」は岡山市、玉野市からの依頼を受け、岡山芸術交流、瀬戸内国際芸術祭秋会期の会期に併せてそれぞれ岡山市・表町商店街と玉野市の宇野港そばで開くことができた。障害のある方のアートは、2つの大きな現代アート展をつなぐ役割を果たし、トライアングルで岡山県の文化を盛り上げ、一般のアート愛好家らと障害のある方のアートとの出会いの場を設けることとなった。</p> <p>表町商店街での展示は、これまで障害のある作家のアートを見たことがなかった多くの人々に、その作品の魅力を広く伝える格好の機会となった。玉野市で開いたセミナーでは、先駆的に活躍する障害者アート支援者がこれまでの活動や障害のある方のアートに対する想いを語り、聴講した福祉施設関係者から「これまでの自施設の活動と比べ、衝撃を受けた」との感想が寄せられた。著作権など権利擁護についても、冊子を作成しセミナーを開いたことで、福祉施設・支援学校など関係者が理解を深めた。</p>
<p>今後の課題と対応策</p>		<p>「きらぼし★アート展」が岡山の障害のある方の芸術文化活動を支援するべく着実に実績を重ねる一方、「障害のある方のアート作品の常設展示施設の設置」や「創作展示や活用のための相談窓口構築」、「障害のある作家の就労や進学など今後の生活と創作との両立のための仕組みづくり」は大きな課題として残されている。</p> <p>岡山が文化振興と障害者福祉を一体的に推進する先進地となるべく、「きらぼし★アート展」の継続開催により作家発掘をすすめ、県内の障害者アート支援組織・支援者のネットワークをつくり、作品がいつでも見られる常設展示の場、障害のある作家の就労など生活を考える窓口の整備をすすめる必要があり、2020年度は施設整備やサポート組織づくりの具体的な検討に入ることを計画している。</p>
<p>参加者・利用者の感想など</p>		<p>「どれも、それぞれに異なる個性がキラリと光っており、作品に込めた思いや制作の過程など想像しながら、楽しく鑑賞できた」</p> <p>「県外の障害者アート支援先進例の講演を聞き、これまでの自施設の活動と比べ、衝撃を受けた」</p> <p>「作品に対する作者の思いや作品から生まれる多様なストーリーを多くの人が知ることができる機会が増えていくことに大きな期待と可能性を感じています」</p>

写真の提出



表町・街なか美術館「空中展示」



表町・街なか美術館「店頭前展示」



第3回きらぼし★アート展 in 玉野